

モデルプログラム L-3 保護者・地域とのネットワークーネットワークの実際ー

ねらい	地域の支援団体の活動や支援者の取り組みについて事例報告を通して理解し、連携の在り方を具体的にイメージでき、ネットワークを構築しようとする。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input checked="" type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	L 保護者・地域とのネットワーク B 外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60 分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 地域の状況を確認する。（10分） ・当該自治体の多文化化状況（B） ・エスニック・コミュニティ（B） 2. 地域の支援団体の取り組みを知る。（30分） ・地域の外国人支援の状況（L） ・国際交流協会、NPO 団体等との連携（L） 3. 連携の在り方について話し合う。（15分） ・他の領域の専門家との協働（N） 4. まとめる。（5分） ・教育コミュニティ（A）	1. 地域に暮らす外国人児童生徒等の特徴と受け入れ体制を確認する。 ・人数、国、母語 ・地域内の散らばり（エスニック・コミュニティの存在） ・傾向（定住化、日本生まれ／特定の国からの編入の増加など） 2. 連携して支援にあたっている地域の様子について知る。 活動例① 書籍、ドキュメンタリーなどを活用し、地域が連携して外国人児童生徒等の支援にあたっている事例を知る。 ・関わっている団体とその役割 ・どのように連携しているか 活動例② 地域の支援団体の方に来てもらい、活動の具体について話を聞く。 <事例報告を依頼する団体の例> ・NPO やボランティア団体等で、外国人児童生徒等の支援（日本語、母語、学習等の支援）をしている団体 ・学童保育、児童館、スクール・ソーシャルワーカーなどで外国人児童生徒等に関わっている人 ・教育委員会等からの学校派遣の通訳・日本語指導担当として外国人児童生徒等に関わっている人 3. 具体的な連携の方法について考える。 少人数のグループに分かれ、報告の内容について振り返るとともに、具体的にどのようにすれば連携していけるのかについて話し合う。 4. 活動を振り返り、「学校・地域支援者の連携」の重要性について確認する。
備考	・2の活動は、時間があれば、活動例①と活動例②を組み合わせ実施する。地域で活動している団体が複数あれば、活動例②だけとし複数の報告を聞けるとなおよい。 ・活動例②で実施した場合、3の活動は登壇者とフロアの質疑応答としてもよい。

